

広場ニスト / ひと・ネットワーククリエイター 山下裕子



にぎわいの場
富山グランドプラザ
稼働率100%の公共空間のつくり方

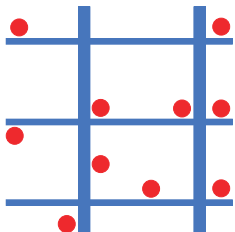
（左）富山グランドプラザの夜景
（右）富山グランドプラザの昼景

おすすめの1冊

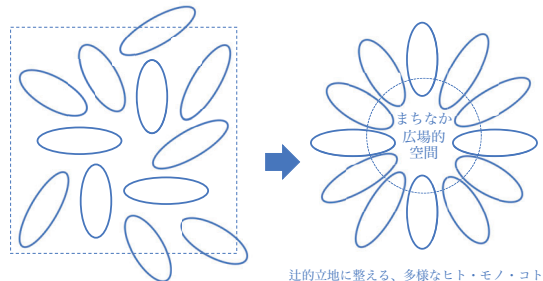
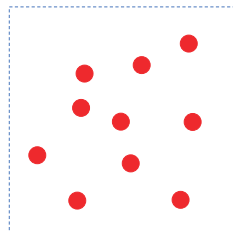
佐久美子
建築家、東京藝術大学准教授

[illegible]

まちなか



まちなか広場



辻の立地に整える、多様なヒト・モノ・コトが集まる
まちなか広場的空間を、まず地域の核の居場所にする

最も強い者が生き残るのではなく、
最も賢い者が生き延びるのでもない。
唯一、生き残るのは変化できる者である。

チャールズ・ダーウィン

虚はすべてを容れるが故に万能であり
虚においてのみ運動が可能になる。

岡倉天心「茶の本」より

モノ
コト
トキ
(空間)

まちなか広場を
地域社会のいま
うつしだす鏡に

清掃と警備だけが

$$\frac{\text{活動量1}}{\text{人口1}} = \frac{\text{活動量2}}{\text{人口1}/2}$$

ひと（他者）が居る

人通り・通行量・ミルミラレル・ひとの目・安全

その場を使っている人がいて
はじめて、「場所」にみえる



ひと（他者）が いつも居る場所

期待感・無目的ででも出かけたいくなる

わざわざ、行かない
(わざわざ、行きたい)

出かけると 何か出会う
出かけるが 楽しくなる
出かけると 健康になる

人が居る (出かけて)
商いが、始まる

人が居る → 団子屋ができる
(民間の得意分野)

昔は、街道・参道
今は、病院・施設

通路 ≤ 広場 = 市場

人通りがあるところを整える
編みなおして「要」をつくる

Tori (広場=市場)

- ・地食地産 (買える場&売れる場という認知)
- ・市場調査 (マーケティング)
- ・あらたな市場をつくる (得意・販売機会)



出典:「モヨリノ」プロジェクト資料



出典：「モヨリノ」プロジェクト資料



自己実現・主体性・自治への心持ち



広場 = 市場

(マーケット・マーケティング)

“地域内” 経済循環促進のため

(広場に参入開口部設え、参入業種の店舗低賃料、隣接事業の法人税の流れ)



経済循環促進のため

朝市の魅力、はじまりの朝

でかける ”用” をつくる

必要に応える働き、役に立つ、使い道、用事、用便、用途

居場所

×

移動性

モビリティ
&
出かけた

待ち合いの場所

待ち合せの場所

地域の真ん中の広場的空間を、多種多様な人が
利用可能なフィールド（環境×仕組）に整える

地域性 × 個性 = 多様性

多様であること
自然であること
だから安心する

（移動制約者である）シルバー世代や未就学児の親子の
行動範囲内に、まちなか広場的空間がある

→ 毎日、違う光景 → 楽しい場所

→ 子どもが居る → シルバー世代が眺める

→ 多世代の「でかける機会」を創出

公共空間 = 地域そのもの

弱者が滞留できる場所だからこそ、行政の関わりが重要
場の空気感が地域の安全性を培い新しい価値を創造する

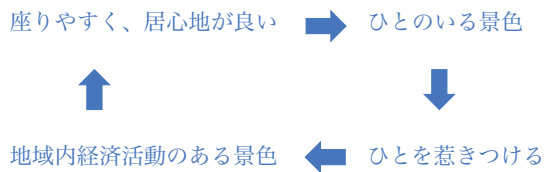
曖昧多義の要素を
共存・成立させる
ことができる空間

混在の美学

混在する風景への理解
混在するからうまれる
混在だからこそ面白い

「まちなか」

人口規模に関係なく
地域の日常について問いかけられた一年
文化とは、自然とどうつきあうかということ
そして、自分がいる自然のほうが楽しい



これを常態化するには???

賑わい = 滞在人数 × 滞在時間

土日2日間／平日5日間 平日の日中に広場に滞在できる人は？

オトナが、堂々と
ぼんやり、できる

居ること事態を楽しめる場の数
場に居ること事態を楽しむ人数

居心地とは、そこにいるときのころもち

まちなか広場 通過交通 → 眺め → 滞留時間



通過交通はある . . . 滞留時間はナシ（現状）

人が居る光景を常態化するためには
眺めたくなる状態を常態化すること

（日陰・風・草花・子ども・若者・催し物等）

催事の実施は目的ではなく手段、趣味嗜好等の横のつながりを育成する機会創出や市場の活性化等

広場を利用することで
全員が地元の主体者に

開かれた場での
共同作業・定例会の価値
（日程調整はコスト）

美化活動・交流会・井戸端でのおしゃべり
言語を用いないコミュニケーション、広報せずとも、自分の予定を中心に

よそものは（関係人口）
勇気をつれてくる存在。

19世紀、旅人とは
自由な創造を行う芸術家であった。

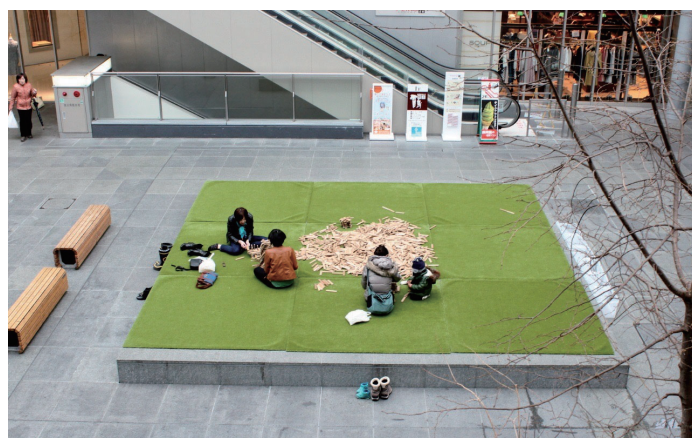
ひらかれた
空気・空間・間柄

ネットワーク型
サードプレイス

出会う・感じる・支え合う
パワーになる心のつながり
実存隣人とのつながりの質

- × 課題の解決
- 楽しいから、はじめる

時間を過ごす。顔なじみになる。
近くに居る人に親しみをを感じる。





広場で（のみ） 出会うひと

約束しなくとも、名前を知ってても知らなくとも
なんとなく気のあう、顔見知り、に出会える場所

おたがいさまの芽生え
思いやりの気持ちを育む
あたらしい関係性を誘発

お互いが、お互いの楽しみになれる
↑
ひとの姿が、経済活動を起こす（街道・参道）
↑
眺める対象があると、滞留時間は伸びる

自己 ⇄ 他者
ミルミラレル関係性

相互作用

お互いの存在自体が、お互いの楽しみを創出できる

私の「ふるまい」が
共用空間に影響する

領域感をつくる

帰属意識の向上

(自治の基礎)

はた らく



仕事

自然（風）の中に、身をおける
屋外空間（オープンエア）

室内だけで、生きていける現代
心ゆたかに暮らす・心身の維持
季節感・地元の恵みを享受する

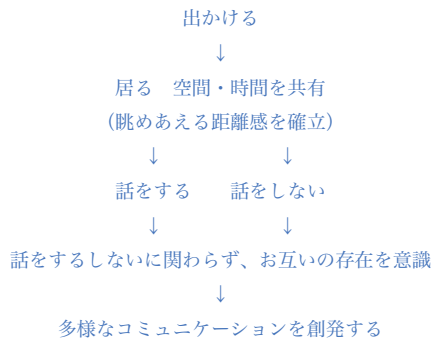
無目的な時に
期待をもてる

(あそこに行けば、何かに会える、誰かに会える)

日常的に家から出る

日常生活には習慣性

出会い・チューニング・関係性



きく → きける間柄 ・ きけるタイミング
訊く (問う)
尋く (あきらかにするために人にあたる)
聞く (音を感じとる)
聴く (注意して耳に入れる)
効く (効果や働きが現れる)
利く (役立つ)

地元らしさを花ひらく
それは、あたしい源泉
地元文化 (地力の楽しみ方) の棚卸し、風を吹かせる試み

地元の
技術・思想・習慣を考える。

広場を、身体性を伴ったメディアにする
媒体＝一方から他方へ伝えるためのなかだちとなるもの、自分が居て他者が居て、隣人の存在を認知して初めて

地形から、見直すべき時期
“うっかり千年” ”おかえり久留米”
古代から営みが続くゆたかな地域、ゆったりした人たち
八戸藩・富山藩・諏訪藩・松江藩・播磨藩・久留米藩

関係人口

静岡県の事例

ひらかれた広場で
オープンな関係性
機敏で寛容な対応



これまでは計画的

地域共同体的関係性

同じ地域に居住して利害を共にし、政治・経済・風俗などにおいて
深く結びついている人々の集まり（社会）のこと